

平成二二五年三月

城端別院善徳寺建造物等調査報告書

富山県南砺市教育委員会



善徳寺伽藍 全景



山門
(富山県指定文化財)



式台 (南砺市指定文化財)



式台門 (南砺市指定文化財)



台所門
(南砺市指定文化財)



本堂（富山県指定文化財）



鐘楼（富山県指定文化財）



太鼓楼（富山県指定文化財）



庫裏（南砺市指定文化財）



対面所



大納言の間



対面所小屋裏 当初の勾配の緩い屋根の母屋が残存

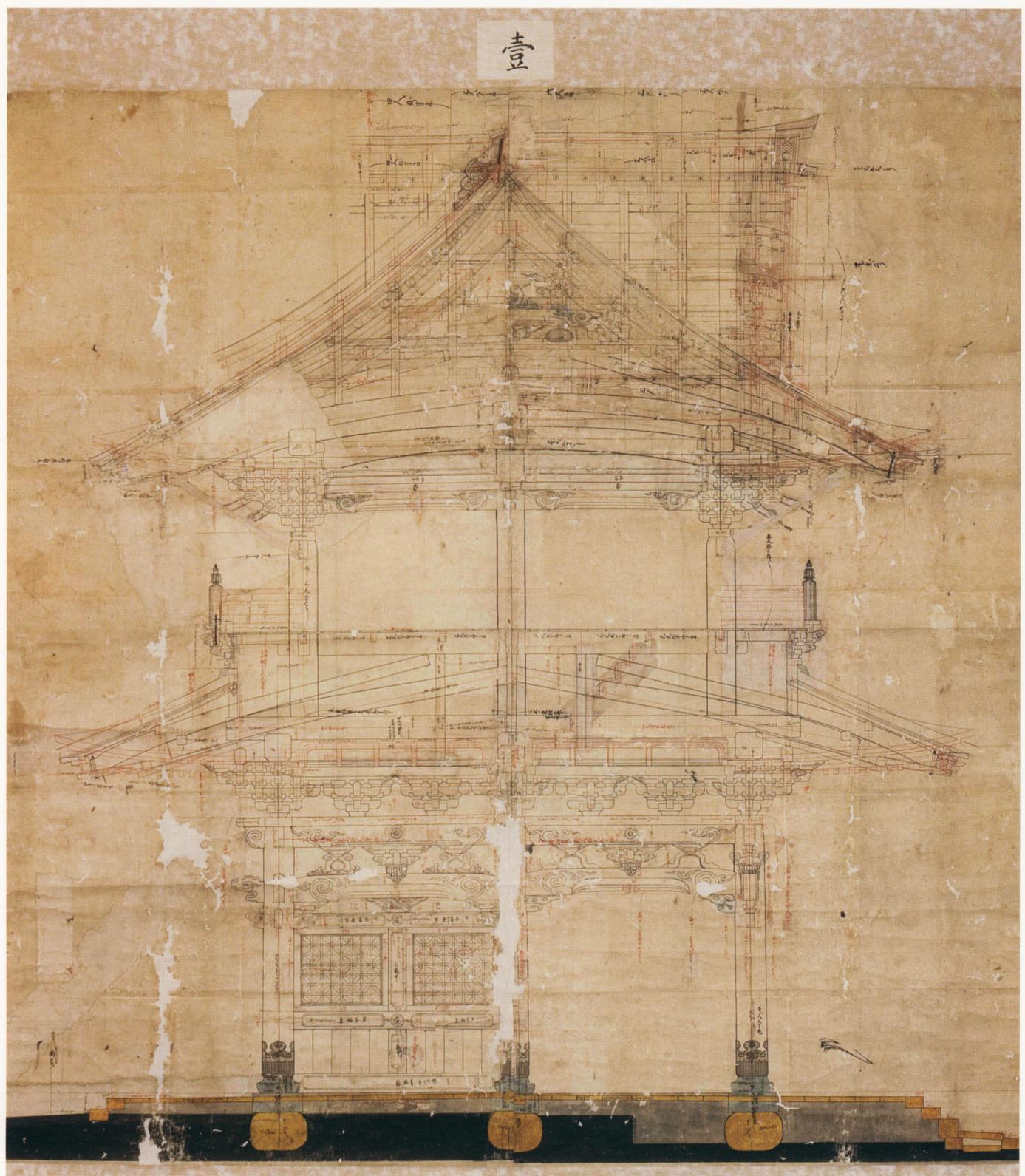


対面所 柱に残る痕跡



同柱列 見返し

壹



『大門設計図 壱』(文化年間)



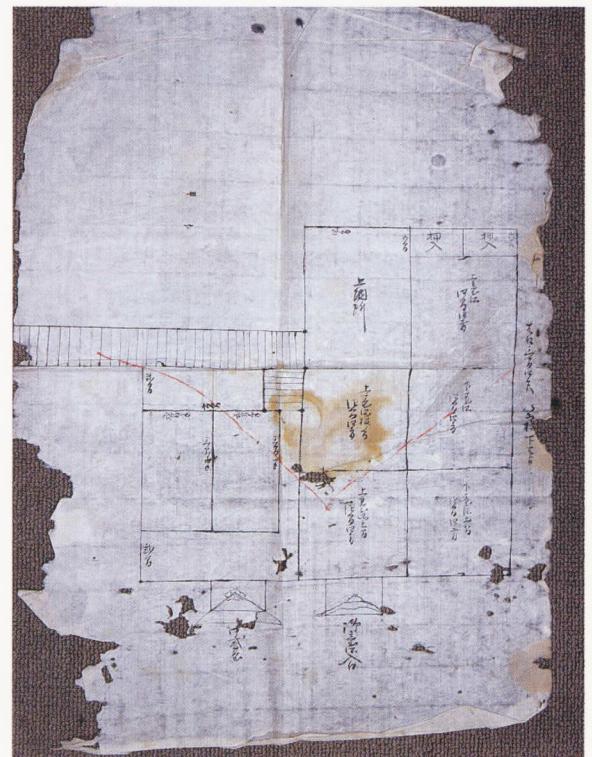
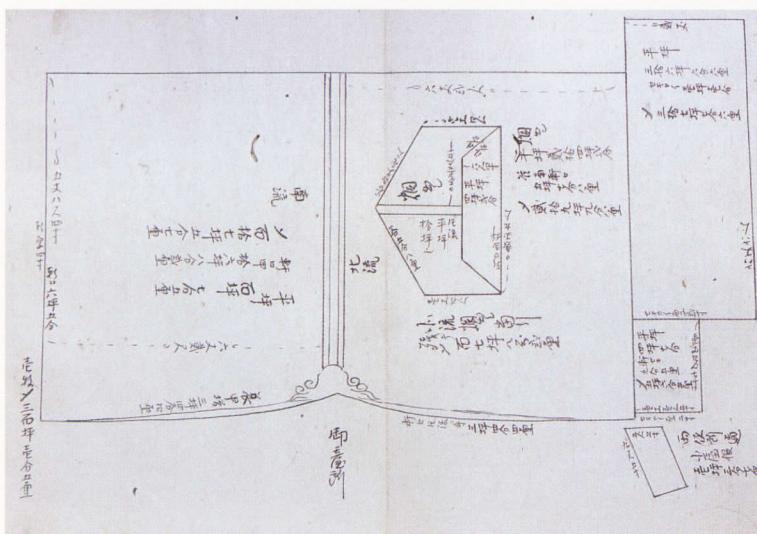
『善徳寺境内図（善徳寺絵図）』（寛保年間）



『善徳寺境内絵図（配置平面古図）』（18世紀末頃） 山門・式台門建設時の配置予定図といわれる

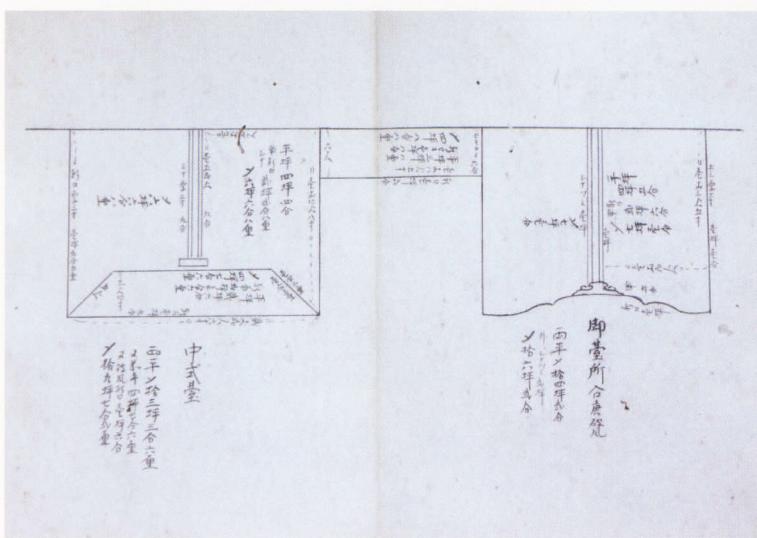


『城端御坊全景図（伝嘉永年中）』（小原治五右衛門画 小原家所蔵）



今回発見の断簡（年代不詳）

朱書きが庫裏の屋根範囲を示している



『御屋根惣絵図（屋根葺替絵図）』（安政～文久年間）

平成二二五年三月

城端別院善徳寺建造物等調査報告書

富山県南砺市教育委員会

序

善徳寺は本願寺八世蓮如を開基とし、現在地に招致されて以来、城端の町立てに大きく関わった名刹です。創建以来、長い歴史のなかで一度の火災にも遭っていない、稀有な建造物で伽藍を構成され、昭和四一年五月には旧城端町の文化財に指定され、そのうち山門・本堂・鐘楼・太鼓楼は、平成五年八月に富山県有形文化財に指定されています。現在も信仰・祭り・イベント等の中心となり、住民に限らず訪れた人々の心のよりどころになっています。

南砺市教育委員会では、平成二〇年度からこれらの建築物について詳細調査を実施し、多くの成果を得ました。本書は、その調査成果をまとめたものであり、今後、善徳寺保存継承の一助となるとともに、学術研究や文化財保護のため、多くの方々に広く活用いただければ幸いです。

最後に、調査から報告書刊行までご指導、ご協力を賜りました富山県教育委員会、上野幸夫先生をはじめとする調査委員の皆様、職藝学院、善徳寺、さらにご協力をいただいた関係者の方々に深く感謝申し上げるとともに、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成二五年三月

南砺市教育委員会
教育長 浅田 茂

例　言

- 一 本書は、富山県南砺市城端に所在する浄土真宗（大谷派）寺院 城端別院善徳寺の諸建築物と建造物に関する資料を調査対象とした城端別院善徳寺建造物等調査の報告書である。
- 一 調査は南砺市教育委員会が調査委員会を組織し、その協力を得て実施した。
- 各建造物の詳細調査については、富山国際職藝学園に委託して行つた。調査は職藝学院教授の上野幸夫氏が担当し、研究助手の牧野直子氏・安部史子氏が調査および図面の作成を補佐した。
- 調査事務局は南砺市教育委員会文化・世界遺産課（平成二三年度まで文化課）に置き、世界遺産・文化財係（平成二三年度まで文化財係）が調査事務を担当した。
- 一 調査期間は平成二〇年度から平成二四年度である。
- 一 本書の編集と執筆は、調査委員会の指導のもと行つた。調査委員会委員長の上野幸夫氏（職藝学院教授・南砺市文化財保護審議委員）が監修し、事務局が編集を行なつた。
- 一 図面及び写真は、富山国際職藝学園が作成・撮影したものの中から掲載した。
- 山門天井絵写真は、富山県教育委員会から提供を受けた。
- 一 本文、図面とも表示寸法は原則として「メートル」で記述したが、必要によつて「尺」を用いた。
- 一 今回の調査及び本書の作成にあたり、助言をいただいた文化庁・富山県教育委員会、ならびに調査中、ご協力をいただいた多くの関係の方々に、衷心より感謝の意を表したい。

目次

目次序言

一 建造物等調査事業の概要	13	4	2	1						
二 善徳寺の歴史・沿革						
三 善徳寺建造物の概要と変遷						
四 建造物の詳細						
山門	13	本堂	15	鐘樓	18	経蔵	19	善徳寺会館	20	
香部屋	21		式台門	22		対面所	23		大納言の間	25
新講堂	36		本堂廊下	37		旧東の間・中式台	37		西の書院	39
茶室 （廓龍庵）	40		台所門	41		庫裏	42		太鼓樓	45
台所前土蔵	45		御殿・竹の間	46		御広敷	48		研修道場	49
道場門	51		新御殿	52		土蔵	53			
五 資料調査の成果	102	96	13	4	2	1				
六 まとめ

図面
写真図版

